きらり光る地域

▲山本さんはこれまで県内各地で6基を築炉。各地に積極的に技術を伝えます。

竹炭のプロフェッショナル

山本文夫さん（伯太町上十年畑）

「森の名手・名人」に選定

「窯（かま）を見ると、この部分はあの時に修理したなあと昔を思い出します」と20年前に築いた炭窯の前で話すのは山本文夫さん（78歳）。八名窯（やながま）と言われる2メートル四方の窯は竹炭専用のものです。山本さんは、長年培ってきた竹炭の製造技術とその活用が認められ、今年8月に公益社団法人国土緑化推進機構から「森の名手・名人（加工部門）」に選定されました。

山本さんは元々、団体職員。54歳で早期退職をしたとき、「生まれ育った地域に残るんだったら地域の皆と何かをやりたい」と考え、子どもの頃に見聞きした「上十年畑は全国木炭品評会の入賞の常連だった」ことを思い出します。当時は、木炭製造の従事者が何人か残っていたこともあり、「この技術を有効活用したい」と一念発起。新しいことを模索する中で、当時社会問題になっていたホルムアルデヒトなどに効果のある「竹炭」に着目します。

しかし、木炭づくりの経験者は居ても竹炭の経験者はゼロ。地域の人も乗り気でなく、皆さんを説得し続けます。先進地の視察を契機に流れが変わり、平成8年には「やまこ会（24人）」を結成。2年後には前述の窯を築きます。

家や人を守る竹林資源

ところが苦労は続きます。「熱気流の調整が難しく、20回以上はテストをしました」と話すように、良い竹炭をなかなか焼くことができませんでした。試行錯誤の末、「原料の組み方と、煙突の位置の重要さに気づき成功した」と明かします。竹炭の製造技術を確立したことで、県内から視察が相次いだと言います。

竹炭は木炭以上に消臭・吸収効果があります。販売を開始したところ瞬く間に評判に。「床下に竹炭を入れておくと、家の中の空気が全く違うとお客さんから言われます。口コミで広まって、山陰では1300軒の民家に使われていますよ」。

現在でも仲間と共に農閑期の冬季に7～8回の炭焼きを行う山本さん。今後の展望を次のように話します。

「地域の農作業を受託しているので炭焼きは農閑期のみ。耕作放棄地が増えないよう農業を中心にしつつ、竹炭製造のノウハウは世の中に提供していきたいです」。

▲一度の炭焼きで500本の竹を使用。副産物の竹酢液は農作物にも有効で多くの人から引き合いがあります。

編集後記

▼半年にわたって消防団に密着。取材で目についたのは、団員の皆さんが活動時に見せる団結力。操法大会では、選手ではない団員も一緒になって競技を盛り上げる姿が。それが本番だけではなく、練習の時からということに驚きました。私たちのまちを守り続ける消防団。胸の紋章とチームワークが光ります（旬）

▼竹は炭以外にも竹酢液を採取することができます。この液体も優れもの。土壌改良に使ったり農作物に吹きかけたりすると、栄養素を吸い上げる力が強くなるとのことです。山本さんは「地球の養分を吸収した孟宗竹だからこその力」と。竹害が問題となる昨今ですが、竹の秘めたるパワーを教わりました（の）

安来市の人口と世帯数 H30.10.31現在

人口合計／ 38,969人
（男:18,682人　女:20,287人）
世帯数／14,324世帯

政策秘書課編集／安来市役所
〒692-8686島根県安来市安来町878-2　電話:23-3010 / FAX:23-3161
ホームページhttp://www.city.yasugi.shimane.jp
メール:hisho@city.yasugi.shimane.jp

VEGETABLE OIL INK
R70 古紙パルプ配合率70%再生紙を使用
●資源保護のため、この広報紙は再生紙を使用しています。
●広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください。
●自治会宛の発送等につきましては、地域振興課（☎23-3067）までご連絡ください。